

あそぶ、まなぶ、いきる。

山と溪谷社

An impress Group Company

各 位

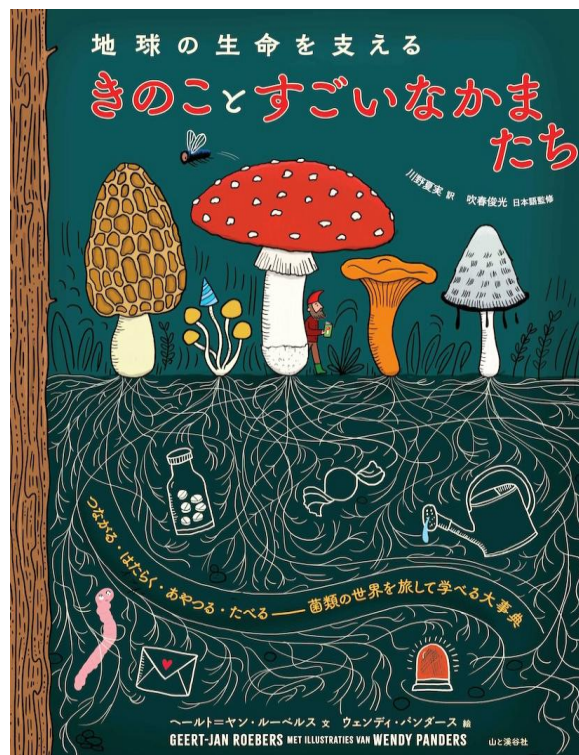
2026 年 10 月 5 日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

子どもから大人まで、菌類の世界がまるごとわかる科学絵本『地球の生命を支える きのことすごいなかまたち つながる・はたらく・あやつる・たべる——菌類の世界を旅して学べる大事典』を発売

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、2026 年 10 月 5 日に『地球の生命を支える きのことすごいなかまたち つながる・はたらく・あやつる・たべる——菌類の世界を旅して学べる大事典』（ヘルト＝ヤン・ルーベルス／文、ウェンディ・パンダース／絵、川野夏実／訳、吹春俊光／監修）を発売いたしました。



1.一冊読めば、「菌類」が丸わかり！

毒きのこ、おいしいきのこ、冬虫夏草といったきのこだけでなく、食べものや葉っぱ・人間の体に生えるカビ、酵母、水生菌など、「すごい菌類」たちが勢ぞろい！

さらに、「菌類はどこで、何を食べ、どう生きているの？」といった基本の生態から、地中に張りめぐらされた菌糸のネットワークの役割、人間や自然との深いつながり、進化や分類の歴史、身近な菌類の観察方法まで、この一冊で網羅しています。

2. オランダで児童文学賞を W 受賞した話題作

本書はオランダで最も歴史と権威のある児童文学賞「銀の石筆賞(文章部門)」「銀の画筆賞(イラスト部門)」をダブル受賞した『Paddenstoel & co』の日本語版です。オランダらしいカラフルでユーモアあふれるイラストと、やわらかく楽しい解説は唯一無二。読めば絶対にだれかに話したくなる、菌類・きのこの好き必携の永久保存本です。

3. 特別なプレゼントにもぴったり！ 小さなお子様も読める絵ルビ対応

全 144 ページ、オールカラーの大型ハードカバーで、特別な日のプレゼントにも最適です。小さなお子様でも一人で楽しく読み進めることができるよう、すべての漢字にふりがなを振りました。子どもから大人まで、世代を超えて一緒に楽しく学べます。



きのこが地上に出てきたあとは

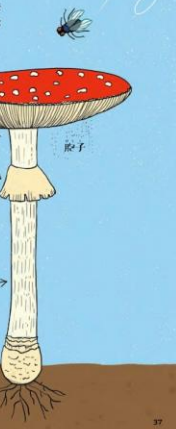
菌類は菌糸が菌糸状に広がったものであることは、みなさんもう分かっていただけたね。菌がきのこをつくる段階になると、その場所でも菌糸がからみあっている。菌糸は地面のすぐ下で、きのこのもとにも小さな菌（原基）をつくる。この原基は、トカゲの卵に似た、弾力があったり太くつぶれたりしている。そして、トカゲの卵の中でトカゲが育つように、菌糸の原基の中できのこが育ちます。まだ生まれていないきのこは、かなり圧縮された状態ですが、水をのせて必要なものをすべて備えています。さながら、陸水のパッケージに入ったインスタントきのこ、といったところです。菌は、適切なタイミングが来るのを待ちます。雨が降る秋の夜なんかにうってつきます。その時が来ると、菌糸のネットワークは卵に水を送りこみます。圧縮されていたきのこは膨らみ、卵の殻が破れ、柄が伸び、傘が開いて……ジャージャー！ きのこの完成です。まるで魔法みたい？ 昔は本当にそう思われていたんです。

できかけのきのこが入った卵は、原基と呼ばれる。

左から右へ、ペルダグタタが卵から出てくる様子です。数日後には傘が開いて、すっかり美しいきのこになります。そうならないのは、菌糸が腐ったときです。

傘の下で

一般的なきのこは、柄と傘からできています。なかには、“たまごの殻のようなもの”が張っているきのこもいます。柄のまわりにあるつばや、傘の上の小さな傘がそうです。傘の下では、大切な仕事が行われています。そう、胞子をつづっているのです。胞子をたくさんつくるには、できるだけ広い面積が外と接している必要があります。そこで、多くのきのこは傘の下にひだと呼ばれる細長い折り目をふくらめています。本のページを折れも広げただけのように、裏面積を大きくしているのです。胞子はひだの壁でつくられます。そして、ひだから離れた胞子は、すきまを通過して、フワフワとただよいていきます。



きのこの栽培部屋

シロアリは、見た目は低くても、アリではあるまいせん。アリと違って暖かい地域でしか見られませんが、自分たちで作った巣で数センチものなままと暮らしている菌は、アリと同じです。アフリカのシロアリの巣は特に大きく、なかには高さ8メートルにもなるものがあります。さらにおどろかされるのは、その内部です。巣は縦長の管でできていて、きのこの栽培場でもあります。知らなかったでしょうか？ 巣の大部分は、シロアリと共生するきのこのための特別仕掛けです。そこには、シロアリが菌にエサをよそするための特別な栽培部屋もあります。エサはあらかじめ噛み砕いておいた木や、かたい植物の切れ端です。さらに自分たちのフンもエサとして与えます。そして、巣には天然のエアコンが完備されています。地下室は地下2メートルまでつなげていて、天井には冷却管があります。さらに二重の壁や、高さ数メートルにもなる換気パイプまで備えています。



名前：ニカワウキタケ 学名：Calocera viscosa
ニカワウキタケは天竺山に生えるきのこで、とてもよく見えます。ネズミやウサギの糞に生える菌は、菌の根や葉のツボツボです。時には、根の葉が腐敗して見えても大丈夫です。

集めて研究してみよう

家でじっくり観察したいからといって、きのこを持ち帰ってもいいのでしょうか？ ほかの人のことを考えてみてください。持ち帰ってしまうと、ほかの人は見るのができません。きれなきのこを見つけたら、家庭に持って来て、そのままだに育てよう。特に、入がく通る場所や、数センチ生えていないきのこは大切にしたいものです。きのこを採集するときは、菌類そのものに近づいて、天竺山問題ではあるまいせん。菌糸のネットワークは、むしろ、菌糸のほうが大ダメージを受けます。きのこを使って餌にするのであれば、必要な菌は、持ち帰ってもかまいません。サルノコシカケのような天竺山きのこは、保存するときは、まずは2日間冷凍庫に入れ、数日後に、もう一度くり返します。こうすると、菌類の増殖が、中にいる菌に食べられるのを防ぎます。でも、もっとよく観察したいのなら、本家に持ち帰る必要があるでしょうか？ 菌を使って、その場で観察するだけでも十分かもしれません。



胞子の模様をとってみよう

きのこ菌類には、特徴のひとつとして胞子の色が書かれていることがあります。でも、自然の中で胞子を見るのは簡単ではありません。サルノコシカケのなかまでは、ときどき色のついた粉が付いているのを見かけます。これは上に重なって生えているきのこから落ちてきた胞子です。けれど、ほとんどの場合、胞子の色を探るには、胞子の模様をとる必要があります。きのこの傘が必要なので、きのこを持ち帰ってもいい場合に行うようにしてくださいね。

胞子の模様は胞子紋とも呼ばれる。



胞子紋のとりかた

必要なもの
・白い紙（薄い色の胞子はよく見えます）
・黒い紙（濃い色の胞子はよく見えます）
・きのこ傘
・コップ

やり方

- 1 このきのこを、白と黒の紙を並べた上に置く
- 2 菌糸の根をコップでかき取る
- 3 きのこを菌糸の根を剥がすように、逆さまに倒し、胞子を落とす（落とす）
- 4 コップを倒し、胞子を落とす
- 5 紙の上にきのこの菌糸の根が倒れたら、胞子紋が完成した！ 胞子紋が完成した場合は、上からコップを覆う。

■目次

1. ゆかいな傘に、ほこりっぽいボールと、くさい棒

きのこの世界へようこそ／ふしぎな形、へんてこな名前／信じられないような話とおどろきの事実／実はこの本のテーマは……

2. 長い糸を持つ生き物

きのこの下に広がる世界／成長と食事／菌類同士が出会ったら／きのこが地上に出てきたあとは／菌はスーパーヒーロー

3. ジメジメ王国

菌類は何のなかま？／菌類の歴史／菌類が勢ぞろい

4. ゴミを掃除し、雨を降らせる

死んだ生き物のゆくえ／生きた植物をねらう／肉を食べる菌類／エサとして／土壌と雨水

5. 深いきずな

植物といっしょに／動物といっしょに

6. 菌類と人間

病気を引き起こす菌類・毒をもたらす菌類／菌類 vs 殺菌剤／お皿の上に／薬品と工場／武器やドラッグとして／きのこを研究する・守る

7. 自分でやってみよう

探して調べてみよう／集めて研究してみよう／自分で栽培してみよう／きのこを安全に味わうには／究極の2択問題

菌類ことば辞典／さくいん

■著者プロフィール

文：ヘールト＝ヤン・ルーベルス (Geert-Jan Roebers)

1961 年生まれ、オランダ在住。ユトレヒト大学で生物学を修了。世界自然保護基金 (WWF) のオランダ支部で勤務したのち、自身の編集・コミュニケーション事務所を設立し、教育テレビ番組の編集長などを歴任。現在は、子ども向けの自然・動物・科学に関するノンフィクション書籍を精力的に執筆している。2023 年には、『Briljante planten』で銀の石筆賞、『Dit was de plastic tijd』で Glazen Globe 賞、2024 年には『Paddenstoel & co』(本書) で銀の石筆賞を受賞した。

絵：ウェンディ・パンダース (Wendy Panders)

1966 年生まれ、オランダ在住。ロッテルダムのヴィレム・デ・コーニング・アカデミー (Willem de Kooning Academy) でグラフィックデザインを専攻。雑誌、新聞、一般書籍のグラフィックデザインやイラストを手掛けたのち、主に児童書の分野で活躍。『Paddenstoel & co』ではイラストだけでなく、本全体のグラフィックデザインやレイアウトも担当し、2024 年には銀の画筆賞を受賞した。

翻訳：川野夏実 (かわの・なつみ)

宮崎県生まれ。東京外国語大学外国語学部を経て、京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了。現在オランダ在住。オランダ暮らしをきっかけに、きのこの魅力に目覚める。毎年秋になると、きのこ探しと写真撮影を楽しんでいる。主な訳書にバーバラ・ストック『ゴッホ——最後の 3 年』(花伝社、2018 年)、エマー・デ・ヨン

グ『ハチクマが還るところ』(サウザンブックス社、2025 年)、ジドルー & ユディット・ファニス腾ダール『くじら図書館』(小さい書房、2025 年)がある。

日本語監修:吹春俊光(ふきはる・としみつ)

1959 年福岡県生まれ。京都大学農学部卒、同大学院博士後期課程修学。農学博士。準備室を経て 1989 年から 2024 年まで千葉県立中央博物館研究員。動物の糞から発生する「糞生菌類」や、動物の死体や糞尿分解跡から発生する「アンモニア菌類」を研究している。主な著書・監修書に『見つけて楽しむきのこワンダーランド』(山と溪谷社、2004 年)、『きのこの下には死体が眠る!?!』(技術評論社、2009 年)、『くらべてわかるきのこ原寸大』(山と溪谷社、2015 年)、『Mushroom Botanical Art』(PIE International、2021 年)、『きのこの暮らし』(技術評論社、2026 年)がある。

■書誌情報

書名:地球の生命を支える きのこことすごいなかまたち つながる・はたらく・あやつる・たべる——菌類の世界を旅して学べる大事典

文:ヘールト=ヤン・ルーベルス

絵:ウェンディ・パンダース

翻訳:川野夏実

日本語監修:吹春俊光

発売日:2026 年 10 月 5 日

定価:4,620 円(本体 4,200 円+税 10%)

判型:A4 変形判(上製)

ページ数:144 ページ

ISBN:978-4-635-58070-0

<https://www.yamakei.co.jp/products/2825350040.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930 年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心とした山岳・自然科学・アウトドア・ライフスタイル・健康関連の出版事業のほか、ネットメディア・サービスを展開しています。

さらに、登山やアウトドアをテーマに、企業や自治体と共に地域の活性化をめざすソリューション事業にも取り組んでいます。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:塚本由紀)を持株会社とするメディアグループ。「IT・デザイン」「音楽」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当:白須賀

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: info@yamakei.co.jp

<https://www.yamakei.co.jp/>